

## 無機質

### カリウム (K)

カリウム (K) はナトリウム (Na) と共に細胞外液および内液の主成分で、神経の興奮や心筋の働きを補助する電解質成分です。カリウムが低下すると、倦怠感や筋力の低下、腎機能低下、不整脈などの症状が出たりします。腎不全などの腎機能低下のときは尿量の減少に伴い、血液中のカリウムは高値になり、やはり倦怠感や筋力の低下、不整脈の症状が出たりします。

基準値： 3.6～4.8 mmol/L

高値を示す場合考えられる疾患	低値を示す場合考えられる疾患
<ul style="list-style-type: none"><li>・カリウム過剰摂取</li><li>・副腎皮質機能不全</li><li>・腎臓疾患（腎硬化症、腎不全など）</li><li>・先天性溶血性貧血</li><li>・アシドーシス</li><li>・薬物（βブロッカー、ジギタリス）など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・利尿剤投与</li><li>・原発性アルドステロン症</li><li>・クッシング症候群</li><li>・激しい下痢、嘔吐</li><li>・摂食障害など</li></ul>

### 血清鉄 (Fe)

血清鉄とは血清中に含まれる鉄分のことです。鉄分はヘモグロビンの原料であり、血液中の酸素や二酸化炭素の運搬に関係しています。血清鉄は朝に高く、夕方から夜間に低いため、健康な方でも採血する時間によって値は大きく変動します。

基準値： 40～188 μg/dl

高値を示す場合考えられる疾患	低値を示す場合考えられる疾患
<ul style="list-style-type: none"><li>・溶血性貧血</li><li>・再生不良性貧血</li><li>・肝臓疾患（肝炎や肝硬変など）</li><li>・ヘモクロマトーシスなど</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・鉄欠乏性貧血</li><li>・腎臓疾患（腎硬化症や腎疾患など）</li><li>・リウマチ</li><li>・妊娠中 など</li></ul>

## カルシウム (Ca)

カルシウムは人体において最も多く存在するミネラルです。大半はリン酸カルシウムとして骨・歯などに貯蔵され、血中に存在するものはイオン化カルシウムとして神経の興奮や筋肉の収縮、血液の凝固、酵素の働き補助などに関わっています。

基準値： 8.8～10.1 mg/dl

高値を示す場合考えられる疾患	低値を示す場合考えられる疾患
<ul style="list-style-type: none"><li>・副甲状腺機能亢進症</li><li>・甲状腺機能亢進症</li><li>・腎臓疾患（腎硬化症や腎不全など）</li><li>・多発性骨髄腫</li><li>・悪性リンパ腫 など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・副甲状腺機能低下症</li><li>・肝臓疾患（肝炎や肝硬変など）</li><li>・ビタミンD欠乏症</li><li>・ネフローゼ症候群</li><li>・妊娠中 など</li></ul>

## リン (P)

リンはおよそ8割が無機リンとして骨に存在し、大部分がカルシウムと結合しています。無機リンはカルシウムと同様、骨の重要な構成成分です。残りは有機リンとしてリン脂質や化合物として存在します。有機リンは核酸や細胞膜を構成しているリン脂質、エネルギー代謝を担うアデノシン3リン酸 (ATP) など高エネルギーリン酸結合の成分として大切です。

基準値： 2.7～4.6 mg/dl

高値を示す場合考えられる疾患	低値を示す場合考えられる疾患
<ul style="list-style-type: none"><li>・副甲状腺機能低下症</li><li>・甲状腺機能亢進症</li><li>・腎不全 など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・副甲状腺機能亢進症</li><li>・ビタミンD欠乏症</li><li>・アシドーシス など</li></ul>